2015.6.26　6月例会用資料

ASK歩く会
水道道路から新宿御苑まで歩く

世話人(金作・原田・大出・稲田)

開催日　　2015年6月18日(木)　曇り

出発　　小田急線　新百合ヶ丘駅

　　午前　　9時

解散　　午後　19時＆19時半（反省会　新宿駅）

参加者　　14名

コース

新百合ヶ丘駅 ⇒(下北沢) ⇒明大前駅 ⇒水道道路

⇒ 新宿中央公園(淀橋浄水場跡地) ⇒ 都庁第一

本庁舎32階(食事) ⇒ 東京水道発祥の地 ⇒

淀橋浄水場跡碑 ⇒ ゴジラ(歌舞伎町)⇒新宿御苑

(新宿門～千駄ヶ谷門)⇒ 国立競技場工事現場

⇒千駄ヶ谷駅 ⇒新宿駅(懇親会) ⇒ 新百合ヶ丘駅

水道道路

東京都道431号角筈和泉町線。玉川上水新水路の跡を埋立てて作られたため水道道路と呼ばれ、約4kmのほぼ直線である。

水道道路のコース

和泉給水所⇒和泉明商店街(沖縄タウン) ⇒環七・

泉南交差点⇒十三号通り公園 ⇒ 十号通り・十号

坂商店街 ⇒中野通り⇒七号通りﾊﾞｽ亭⇒六号通り・

六号坂商店街 ⇒本町隧道⇒本村隧道 ⇒ 東京

オペラシティ⇒山手通り⇒十二社通り(角筈交差)

井の頭道路(水道道路)

井の頭道路

　境浄水場から和田堀給水所への上水道本管の敷地を利用して作られている。

東京都道253号多摩湖自転車道（東京都東村山市、小平市、西東京市）

　自転車歩行者専用道路のうち「狭山・境緑道」は、村山貯水池から境浄水場へ導水する水道施設である。

和泉給水所

和泉給水所（和泉水圧調整所）は、かっては玉川上水からの水を、淀橋浄水場へ送水する分岐点。
井の頭通りが甲州街道とクロスする松原交差点の手前、井の頭通り和泉2丁目交差点脇にある。

和泉明商店街(沖縄タウン)

通称、沖縄タウンと呼ばれる。
何故「沖縄タウン」なのか商店街のHPを見ると、街を活性化するための試みであり、特にこの地が沖縄と関係が深い、というわけでもない。

十三号通り公園

かつて、水道道路(新玉川水路)と交差する通りには、新宿の淀橋浄水場を起点に一号から十六号までの名称が付けられ、そこには木橋が架けられていた。
現在地名として残るのは、この十三号通公園や、十号通り商店街、バス停の七号通り、六号通り商店街などとして残っている。

どこまでも真直ぐな水道道路

行けども行けども、真直ぐな道が続く

十号通り商店街・十号坂商店街

富士見女高前交差点の、南側は十号通り商店街。北側は十号坂商店街である。
十号通り商店街を南に進むと京王線・笹塚駅に至る。

中野通り交差点

交差点を過ぎると、坂道を少しづつ登る

七号通りバス亭

六号通り商店街・六号坂商店街

社会教育館前交差点の、南側は六号通り商店街。北側は六号坂商店街である。
六号通り商店街を南に進むと京王線・幡ヶ谷駅に至る。
十号と同じ名前の付け方になっている。

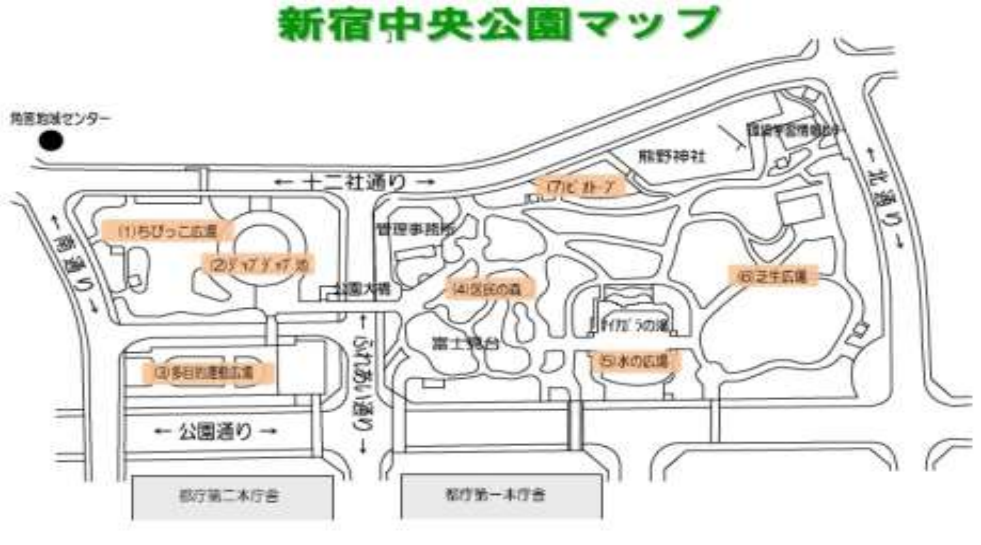
本町隧道・本村隧道

本町隧道

本村隧道

新玉川水路の築堤により通りを分断され、往来が不便になった住民のために造ったもの。

新宿中央公園(旧淀橋浄水場)



旧淀橋浄水場全景。写真手前右下は新宿駅。右手奥が青梅街道、左手が甲州街道

都庁第一本庁舎３２階食堂

都庁弁当　600円

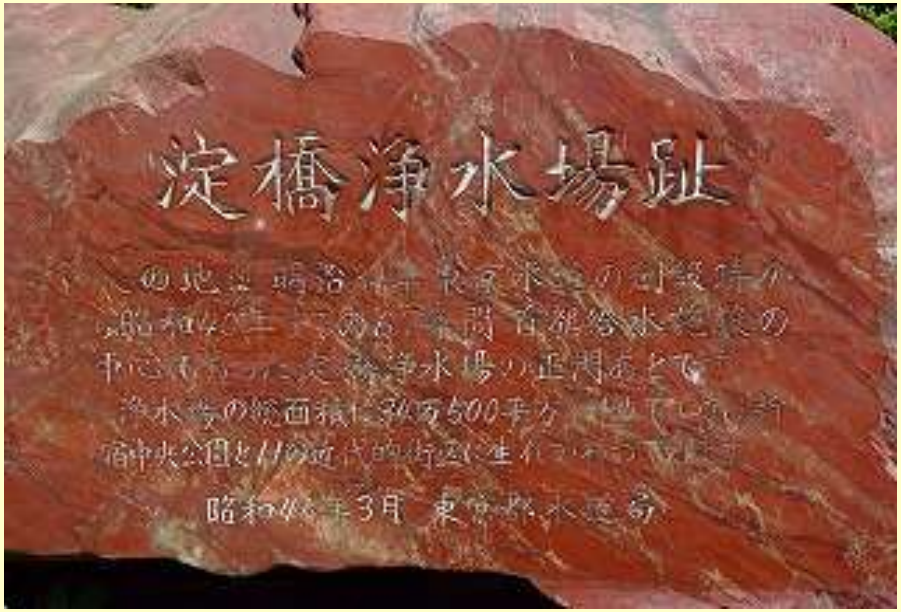
京王ﾌﾟﾗｻﾞﾎﾃﾙ。ｽｶｲﾂﾘｰも見える

東京水道発祥の地

内径1,000ミリメートルの蝶型弁

明治23年(1890年)、玉川上水によって導かれた多摩川の水を 、沈でん･ろ過のして市民に上水を供給する 淀橋浄水場が建設されることとなった。
以後, 明治, 大正, 昭和と東京の歴史とともに歩み続けた 淀橋浄水場は, 昭和40年(1965年) 東村山浄水場にバトンを渡し, 給水開始以来 60数年の歴史を閉じた。

淀橋浄水場跡の碑



新宿駅近く、エルタワー裏の植え込みの中に、「淀橋浄水場碑」がある。
その昔、水道局事務所の正門のあった場所を示す赤御影石の記念碑である。

ゴジラ出現(歌舞伎町)

新宿コマ劇場の跡地に立つ、都内最新最大級の複合型映画館「TOHOシネマズ新宿」と、30階建て高層ホテル「ホテルグレイスリー新宿」の8階テラスに設置されているゴジラの頭部は高さが12メートルあり、地上からは52メートルの高さになる。

新宿御苑

江戸時代に<u>信州高遠藩主内藤家の屋敷</u>があったこの地に、新宿御苑が誕生したのは 明治39年のことで、皇室の庭園として造られたが、戦後、国民公園となり、多くの人々に親しまれている。

新宿御苑

広さ58.3ha、周囲3.5kmの庭園には、

「中の池」等を中心とする回遊式日本庭園　左

広大な芝生と巨樹が特徴のイギリス風景式庭園　中

左右対称や幾何学的に造られたフランス式整形庭園　右

新宿御苑

タイサンボクの下で

旧御涼亭（台湾閣）

国立競技場工事現場

国立の聖火台 石巻に

1964年の東京五輪で聖火をともした国立競技場（東京）の聖火台が18日、東日本大震災の津波で被害を受けた宮城県石巻市の総合運動公園内に設置された。27日の式典で被災者らに披露し、関係者が復興を願って火を付ける。

クレーンでつりあげられる国立競技場の聖火台（18日午前、宮城県石巻市）

祝 TOKYO 2020

27日、復興願い点火

聖火台は直径、高さともに約2・1㍍、重さは約2・6㌧。総合運動公園内に造った高さ約2・5㍍のコンクリート製台座の上に重機を使ってつり上げた。

近くの仮設住宅から見守っていた無職、阿部静子さん（74）は「火が付いたら気持ちも明るくなるのでしょうね」と笑顔を見せた。

地元の経済団体や住民でつくる誘致委員会が「復興のシンボルになる」として、石巻に聖火台設置を要望した。

2015-6-18(木) 日経 夕刊

5年後に開催される2度目の東京オリンピックを、ASK13全員で観戦しよう！

ご静聴有難うございました

尚、７月２８日(火)に、谷根千・本郷巡り(2)を予定しています。